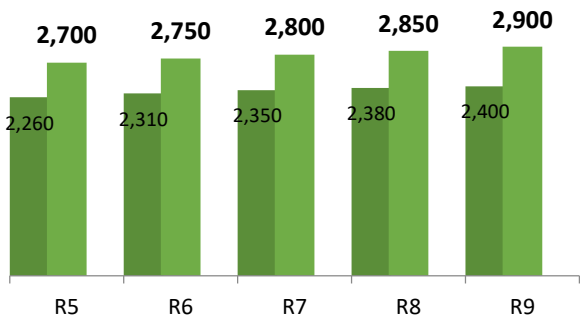


第4次中期経営計画の見直しのポイント①

救急車搬送件数（件）

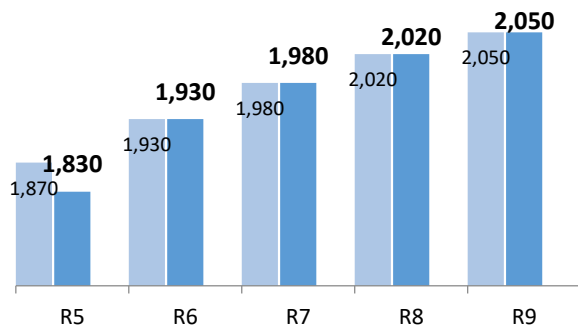
左：当初計画値
右：R5見直し値



- 市内の救急搬送件数の増加に伴い、R5年度は当初計画を大幅に上回る見込み。
- R6年度以降は救急応需率の向上を図っていくため、計画を上方修正する。

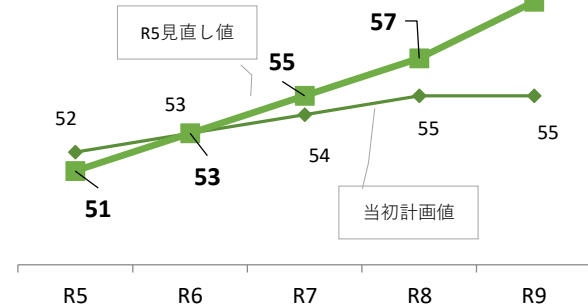
手術件数（件）

左：当初計画値
右：R5見直し値



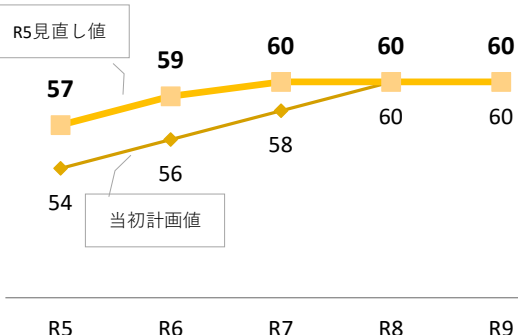
- R5年度は患者減等により当初計画を下回る見込み。
- R6年度以降は救急車からの入院移行率の向上や地域連携強化により入院患者数の増加を図ることから、当初計画を維持する。

紹介率（%）



- R5年度は目標をやや下回る見込みだが、紹介受診重点医療機関の指定を受けたことにより、更なる地域連携の強化を図ることから計画を上方修正する。

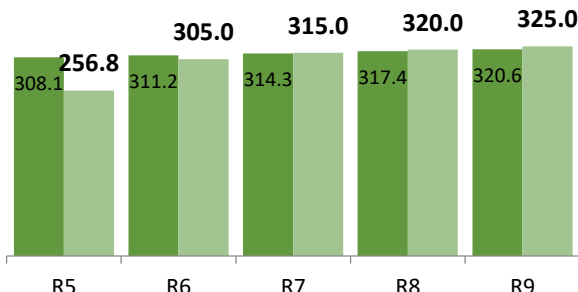
逆紹介率（%）



- R5年度は当初計画を上回る見込み。
- R6～R7の計画を上方修正し、最終計画値である60%の早期達成を目指す。

1日当たり入院患者数（人）

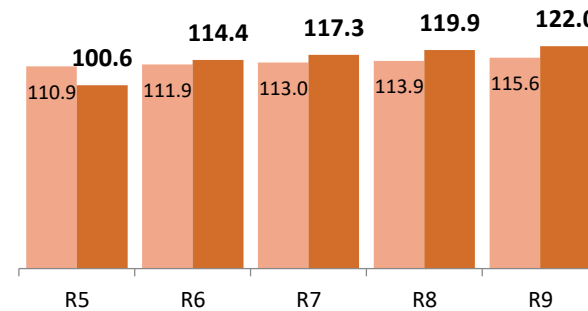
左：当初計画値
右：R5見直し値



- R6年度以降は救急応需率及び入院移行率の向上を図ることから、入院患者数の増を図る。
- このため、R7年度以降の計画を上方修正し、R9年度にはコロナ前の水準に近い325人/日を計画値とする。※H30年度：333人/日

医業収益（税抜き）（億円）

左：当初計画値
右：R5見直し値



- 入院患者数の増や紹介受診重点医療機関入院診療加算の通年化による診療単価の増等により、医業収益の増収を段階的に図っていく。
- R6年度以降の計画を上方修正し、R9年度では122.0億円の医業収益を計画値とする。

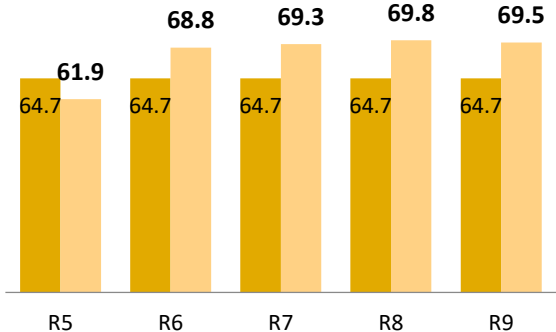
※医業収益には一般会計負担金（医業外収益）のうち救急医療確保経費と保健衛生行政事務経費を加えている

第4次中期経営計画の見直しのポイント②

資料2-2

職員給与費（税抜き）（億円）

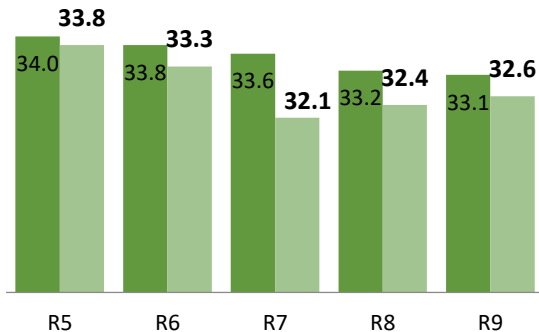
左：当初計画値
右：R5見直し値



- ▶ 地域の医療需要への対応や処遇改善を図るために必要な人件費を見込むため、R6年度予算から大幅増。
- ▶ 以後、年間1%の給与単価増を想定。ただし、R9年度は例年に比べ退職予定者が少ないため、前年度から減少している。

材料費（税抜き）（億円）

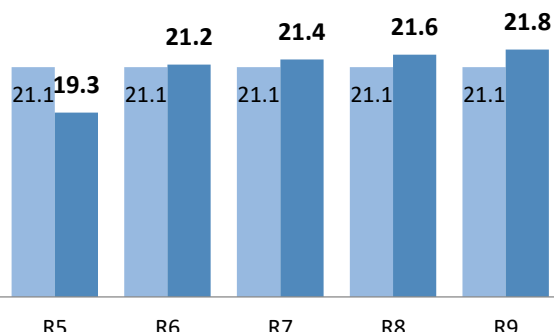
左：当初計画値
右：R5見直し値



- ▶ 患者数の増や医業収益の増に伴い薬品や診療材料費は上昇するが、DPCに包括される投薬注射の見直しによる費用減を図っていくため、計画を下方修正する。

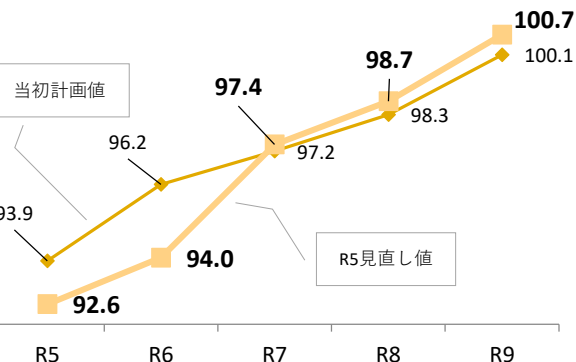
経費（税抜き）（億円）

左：当初計画値
右：R5見直し値



- ▶ 本格的なデフレ脱却の兆しが見える経済情勢の中では委託料や光熱水費の増が今後ますます見込まれるため計画を上方修正する。
- ▶ 一方で経費節減に改めて取り組むことで年間1%程度の費用増に抑える計画とする。

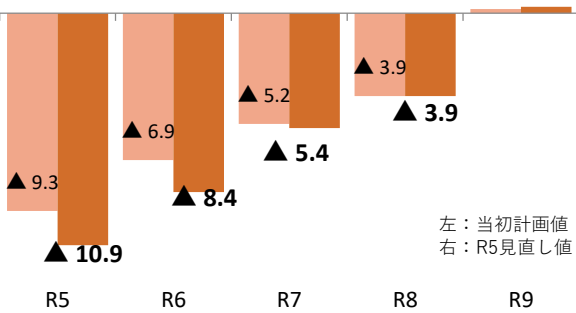
経常収支比率（%）



- ▶ 病院事業収益から特別利益を除いた経常収益と、病院事業費用から特別損失を除いた経常費用の比率である経常収支比率については、計画最終年度であるR9年度に100%以上（黒字）を計画する。

単年度資金収支（億円）

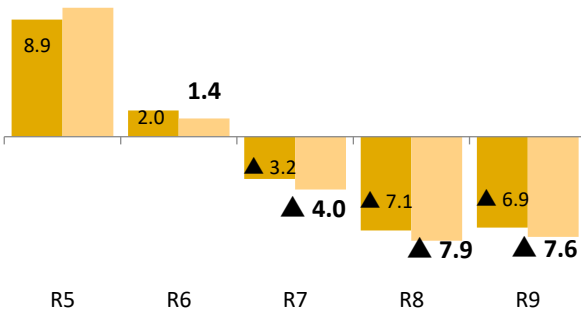
左：当初計画値
右：R5見直し値



- ▶ 経営状況を示す重要指標である単年度資金収支は、入院患者数の増や費用削減の努力により、着実に赤字額を圧縮し、計画最終年度では当初計画と同様、単年度黒字を目指す。

年度末資金残高（億円）

左：当初計画値
右：R5見直し値



- ▶ 単年度資金収支の赤字額の圧縮及び計画最終年度での黒字化により、年度末資金残高は最終年度で▲7.6億円（資金不足比率6.2%）にとどめる計画とする。